

第1章

県民の幸福感の現状 ～属性別にみた姿～

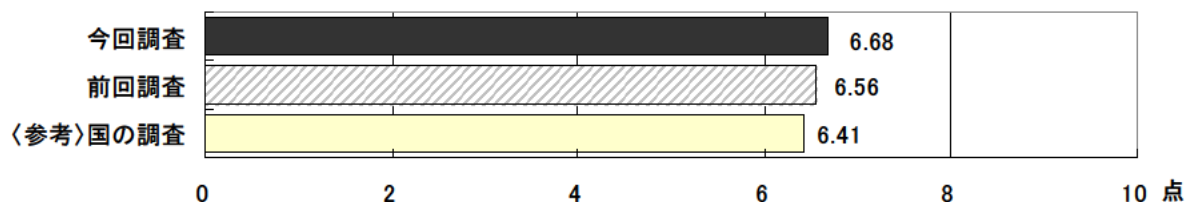
第1節 幸福度の県全体の状況

県民の皆さんが日ごろ感じている幸福度（以下、「幸福度」と記載）について、内閣府の平成23年度国民生活選好度調査（以下、「国の調査」と記載）と同じ形式で質問したところ、平均値は6.68点で、前回調査より0.12点高く、県民の皆さんの幸福度は全体として前年同時期よりも高くなっています（図表1-1-1）。

また、国の調査方法等とは同一ではない（図表1-1-2）ことから単純な比較はできませんが、県民全体の幸福度は国民全体の幸福度よりも高い水準にあると見られます。

点数の分布をみると、国の調査では「5点」が最も高くなっていますが、県の調査では「8点」が最も高く、前回調査よりも割合が3.7ポイント高くなっています（図表1-1-3）。

図表1-1-1 幸福度の平均値（前回調査や国の調査との比較）

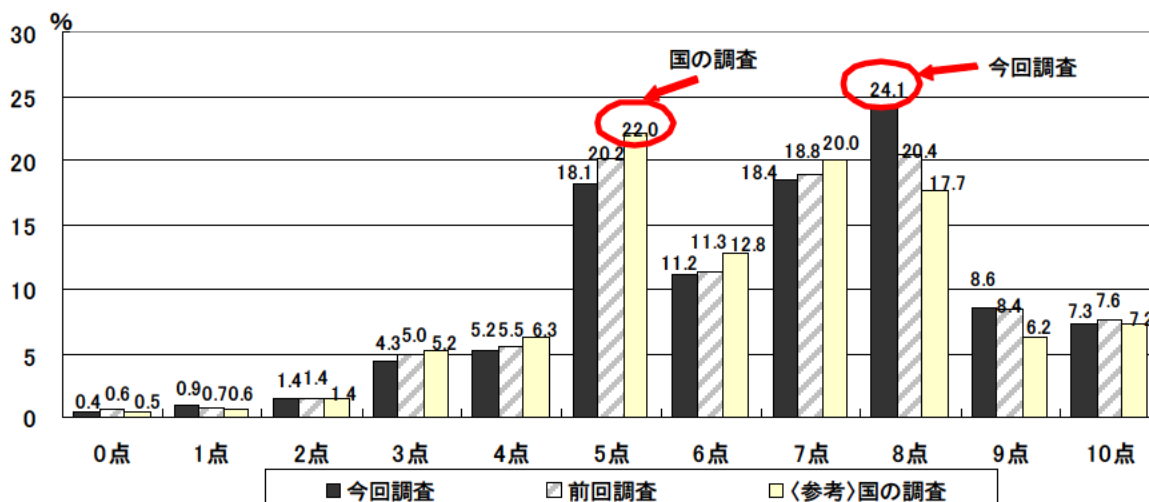


- (備考) 1. 今回調査と前回調査との差は統計的に有意（危険率5%未満）
 2. 今回調査及び前回調査と国の調査との差は、いずれも統計的に有意（危険率5%未満）

図表1-1-2 みえ県民意識調査と平成23年度国民生活選好度調査における調査方法の違い

	今回調査 (第2回みえ県民意識調査)	前回調査 (第1回みえ県民意識調査)	平成23年度 国民生活選好度調査
調査時期	平成25年1月～2月	平成24年1月～2月	平成24年3月
標本数	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	全国に居住する男女 4,000人
有効回答(率)	5,432 (54.3%)	5,710 (57.1%)	2,802 (70.1%)
調査対象	20歳以上	20歳以上	15歳から80歳
実施方法	郵送法	郵送法	調査員による個別訪問留置法

図表1-1-3 幸福度の分布



第2節 幸福度の一属性クロス分析

この節の詳細データは別冊のデータ集2～5頁他に記載

幸福度を1つの属性（ここでは、性、年齢、職業、配偶関係、世帯類型、本人の年収、子どもの有無、地域）によるクロス分析を行いました。個々人の幸福度はさまざまであり、多くの要素と関係性があると考えられることから、県民の幸福度の特徴や傾向をより詳細に把握するためには、次節に記載する2以上の属性によるクロス集計の結果も合わせて見ていく必要があります。

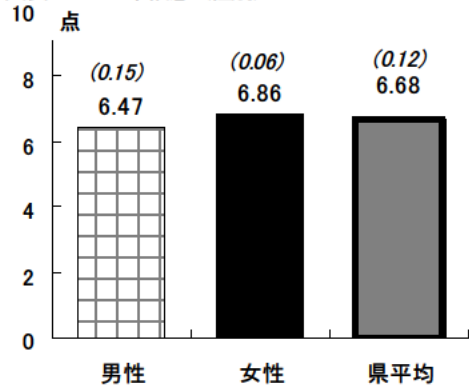
(参考) 1 ()内の数字は前回調査との差(ポイント)です。

- 2 棒グラフについて
- 黒色: 幸福度の平均値が県平均より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
 - 格子: 幸福度の平均値が県平均より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
 - 灰色: 幸福度の平均値が県平均と比べ、統計的に有意な差が認められない属性項目

1 性別

女性は男性より幸福度が高くなっています(図表1-2-1)。

図表1-2-1 幸福度(性別)



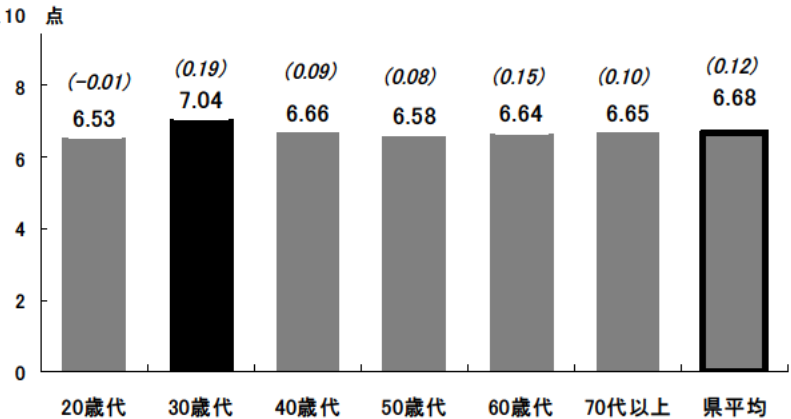
2 年齢別

30歳代の幸福度が最も高くなっています(図表1-2-2)。

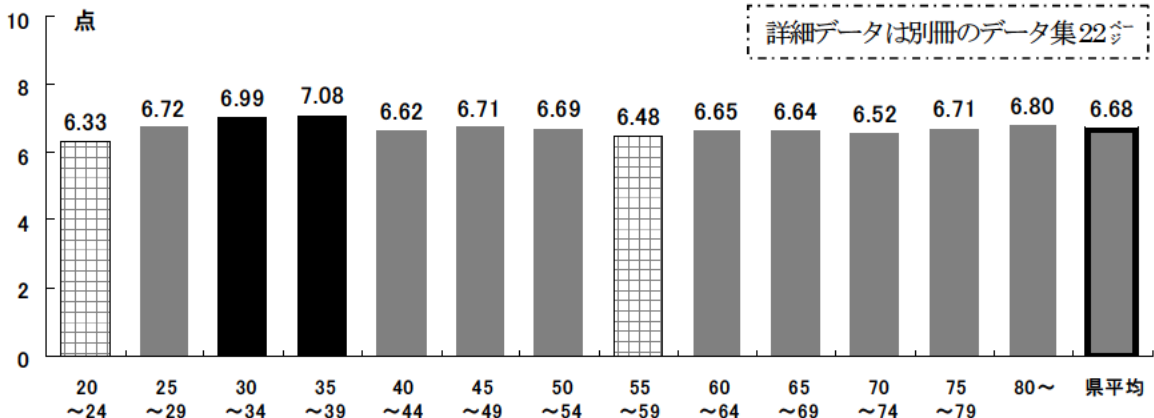
また5歳階級別に見ると、35歳から39歳の幸福度が最も高く、次いで30歳から34歳となっています。

また、20歳から24歳の幸福度が最も低くなっています(図表1-2-3)。

図表1-2-2 幸福度(年齢(10歳階級)別)



図表1-2-3 幸福度(年齢(5歳階級)別)

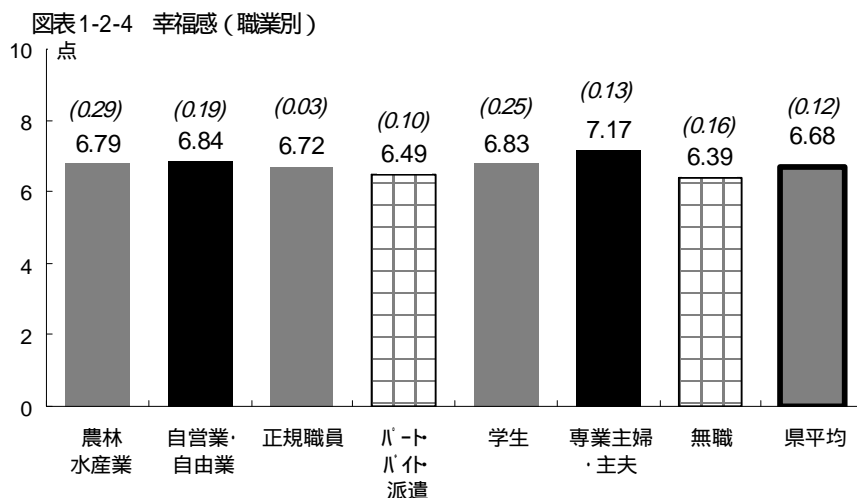


詳細データは別冊のデータ集22頁

(備考) 前回調査では年齢は10歳階級別に質問しているため、比較はできません。

3 職業別

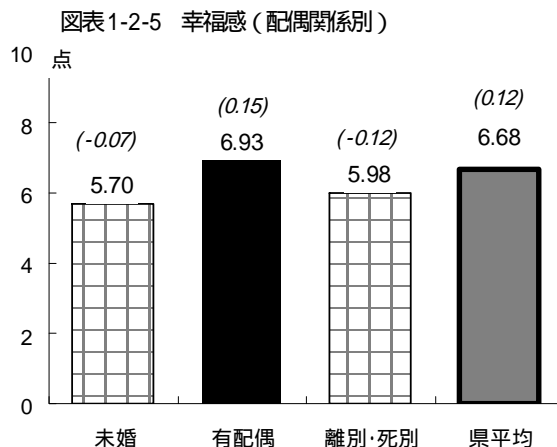
県平均より、専業主婦・主夫の方の幸福度が高く、パート・アルバイト・派遣社員などの方と無職の方の幸福度が低くなっています（図表1-2-4）



4 配偶関係別

前回調査と比べ、有配偶の方は幸福度が高くなった一方、未婚と離別・死別の方は平均値が低くなっており、有配偶の方と未婚や離別・死別の方の幸福度の差は大きくなっています（図表1-2-5）

（備考）有配偶は前回調査との差について統計的に有意（危険率5%未満）です。

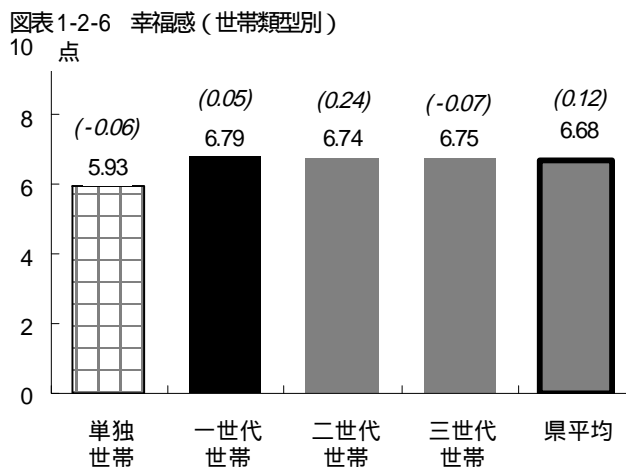


5 世帯類型別

単独世帯の幸福度が県平均より低くなっています（図表1-2-6）

（備考）今回調査では、前回調査で質問した世帯類型に代えて同居の家族について質問しています。そこで前回調査との比較を行うため、同居の家族に関する質問の回答の組み合わせにより、世帯類型を判断しています。

（例）配偶者のみ…一世代世帯
 配偶者と親…二世帯世帯
 配偶者、子、孫…三世帯世帯



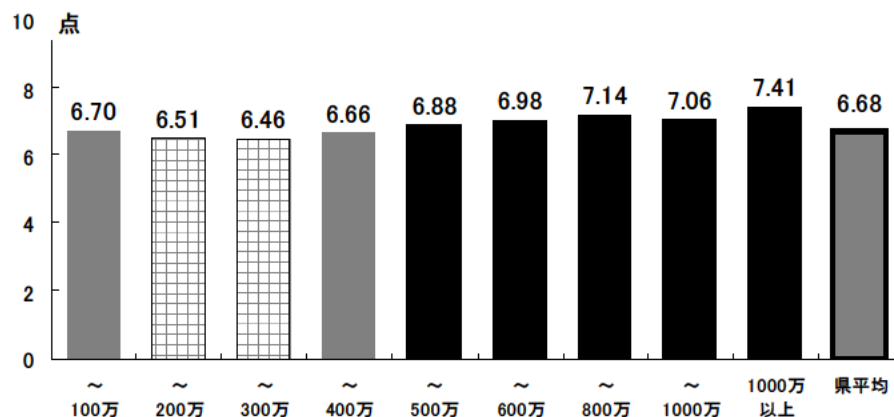
6 本人の年間収入別

県平均と比べ、100万円から300万円未満の層の幸福度が低く、400万円以上の層で高くなっています(図表1-2-7)。

(備考)

1. 専業主婦・主夫など、就労していない方も含まれており、注意が必要です。
2. 前回調査では世帯収入を質問しています。

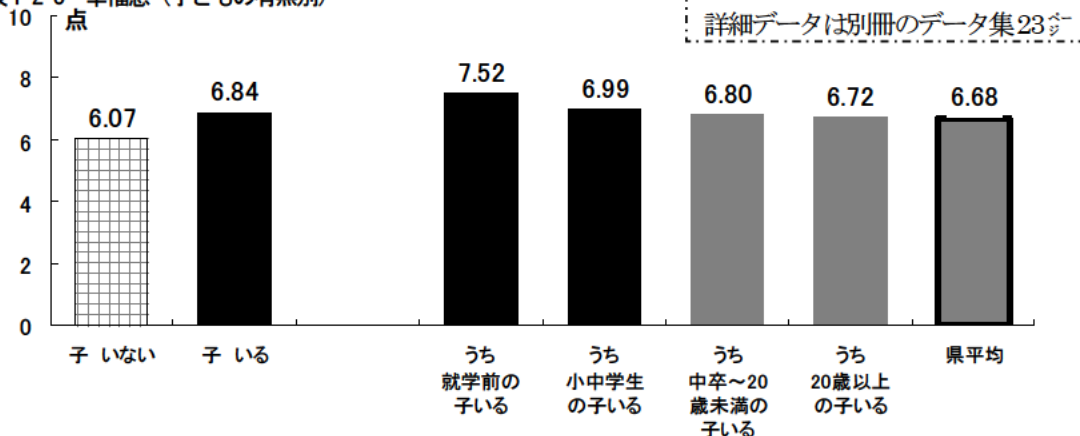
図表 1-2-7 幸福感 (本人の年間収入別)



7 子どもの有無別

子どもの人数について「就学前の子ども」「小学生又は中学生の子ども」「中学卒業後で20歳未満の子ども」「20歳以上の子ども」に分けて質問したところ、子どもがいる方は子どもがいない方より幸福度が高く、特に就学前の子どもや小中学生の子どもがいる方の幸福度が高くなっています(図表1-2-8)。

図表 1-2-8 幸福感 (子どもの有無別)

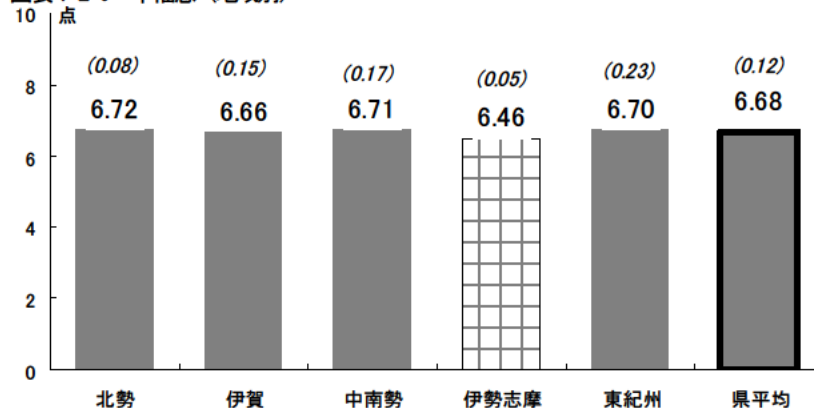


(備考)「就学前の子ども」「小学生又は中学生の子ども」「中学卒業後で20歳未満の子ども」「20歳以上の子ども」の全てに未回答であった方も「子どもがいない」とみなし、集計しています。

8 地域別

他の属性に比べ、属性項目間の差は小さくなっています(図表1-2-9)。

図表 1-2-9 幸福感 (地域別)



第3節 幸福度の二以上の属性クロス分析

個々人の幸福度はさまざまであり、多くの要素と関係性があると考えられます。そこで、県民の幸福度の特徴や傾向をより詳細に把握するため、属性(性、年齢、職業、配偶関係、世帯類型、本人の年収、子どもの有無、地域)を2(必要に応じて3以上)組み合わせてクロス分析を行いました。

二属性の組み合わせは下記の56通り(重複分を除くと28通り)あり、ここでは特徴的な傾向が見られた属性の組み合わせについて記載しています。

なお、全ての2属性クロス集計データは別冊のデータ集2～5頁に掲載したほか、グラフは以下の頁に掲載しています。その他の詳細集計については別冊のデータ集の22頁以降に掲載しています。

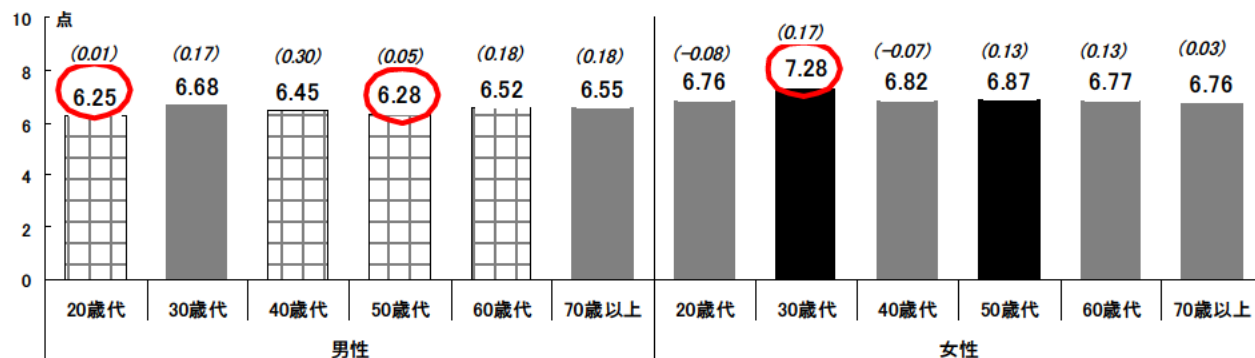
組み合わせ	全てのグラフ掲載	組み合わせ	全てのグラフ掲載
地域 × 性別 × 年齢 × 職業 × 配偶関係 × 世帯類型 × 本人の年収 × 子どもの有無	(別冊 データ集 6～7頁)	配偶関係 × 地域 × 性別 × 年齢 × 職業 × 世帯類型 × 本人の年収 × 子どもの有無	(別冊 データ集 14～15頁)
性別 × 地域 × 年齢 × 職業 × 配偶関係 × 世帯類型 × 本人の年収 × 子どもの有無	(別冊 データ集 8～9頁)	世帯類型 × 地域 × 性別 × 年齢 × 職業 × 配偶関係 × 本人の年収 × 子どもの有無	(別冊 データ集 16～17頁)
年齢 × 地域 × 性別 × 職業 × 配偶関係 × 世帯類型 × 本人の年収 × 子どもの有無	(別冊 データ集 10～11頁)	本人の年収 × 地域 × 性別 × 年齢 × 職業 × 配偶関係 × 世帯類型 × 子どもの有無	(別冊 データ集 18～19頁)
職業 × 地域 × 性別 × 年齢 × 配偶関係 × 世帯類型 × 本人の年収 × 子どもの有無	(別冊 データ集 12～13頁)	子どもの有無 × 地域 × 性別 × 年齢 × 職業 × 配偶関係 × 世帯類型 × 本人の年収	(別冊 データ集 20～21頁)

1 性・年齢別に見た幸福度の特徴

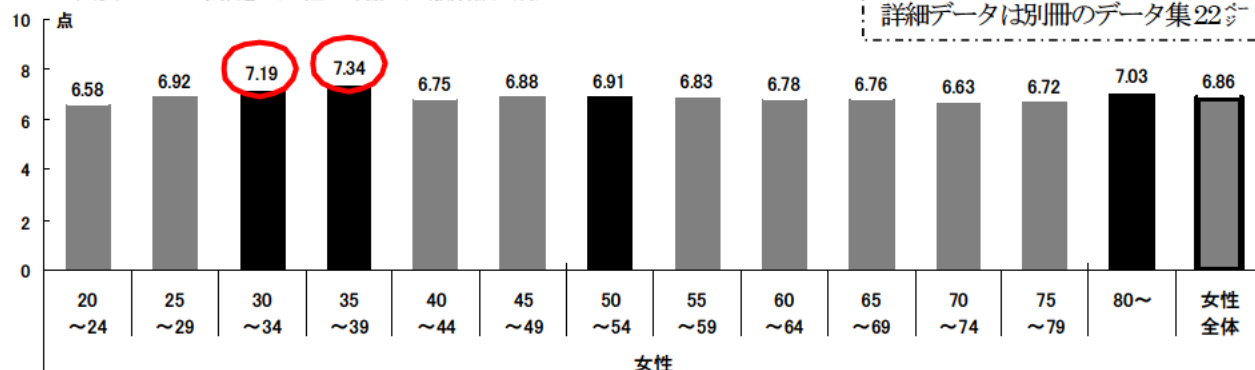
県民の皆さんの幸福度を性・年齢別に見ると、30歳代の女性、中でも35～39歳の女性の幸福度が高くなっています(図表1-3-1、図表1-3-2)。

一方、20歳代(特に20～24歳)と50歳代(特に55～59歳)の男性で幸福度が低くなっています(図表1-3-3)。

図表1-3-1 幸福度(性・年齢(10歳階級)別)

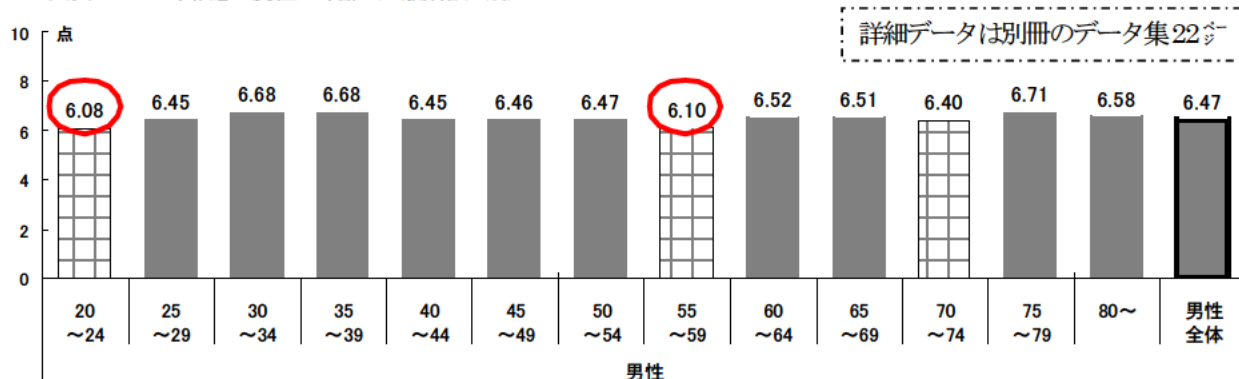


図表1-3-2 幸福度(女性・年齢(5歳階級)別)



詳細データは別冊のデータ集22頁

図表1-3-3 幸福度(男性・年齢(5歳階級)別)



詳細データは別冊のデータ集22頁

(備考) 1. 20～24歳の男性の職業別内訳は、学生(44.4%)、正規職員(32.1%)、パート・アルバイト・派遣社員など(8.6%)の順となっています。

2. 55～59歳の男性の職業別内訳は、正規職員(65.8%)、自営業・自由業(11.1%)、無職(7.3%)、パート・アルバイト・派遣社員など(6.8%)の順となっています。

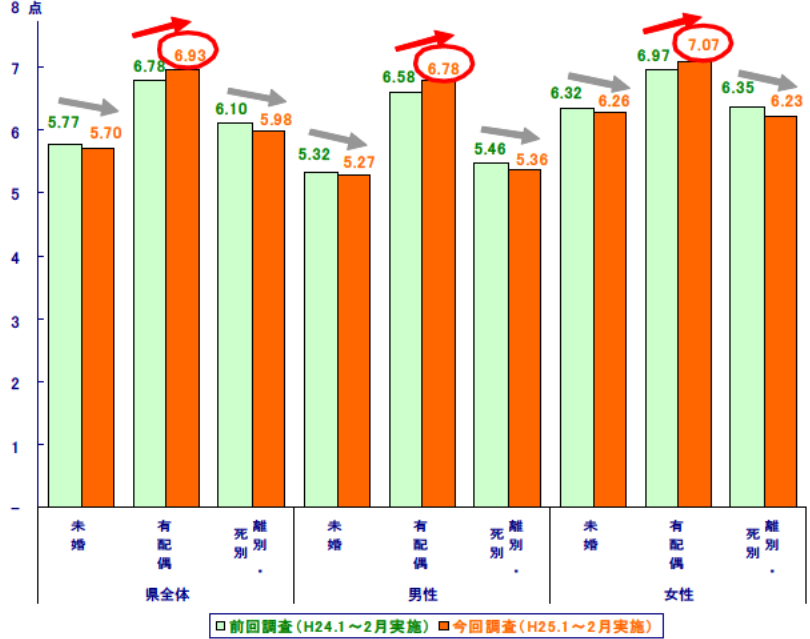
2 性・配偶関係別に見た幸福度の特徴

性・配偶関係別に幸福度の状況を見ると、前回調査と同様、男女とも未婚や離別・死別よりも有配偶の幸福度が高く、特に男性でその差が大きい傾向にあります。

また、前回調査と比べ、男女とも未婚や離別・死別の幸福度の平均値が低く、有配偶の幸福度の平均値が高くなっており、婚姻状況による幸福度の差が広がっていると考えられます(図表1-3-4)。

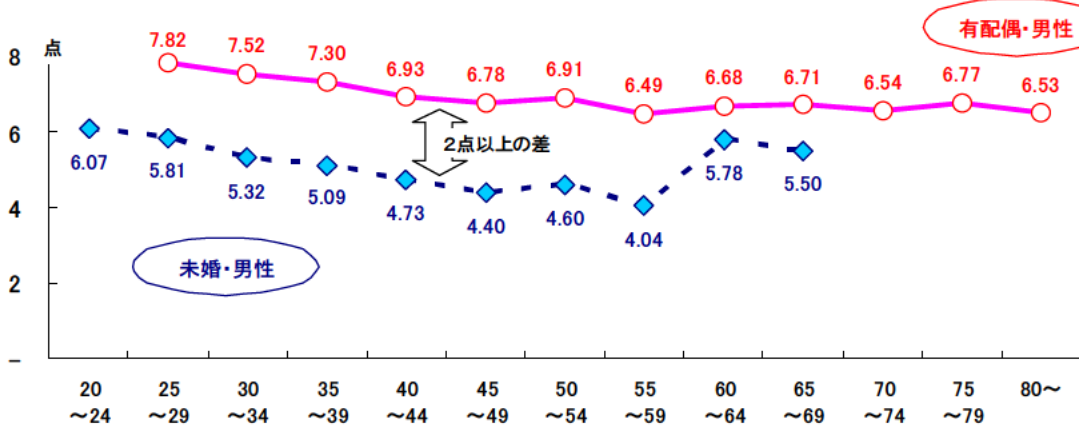
未婚と有配偶の幸福度の差を年齢別で見ると、男性では50歳代まで2点以上の差が見られ、女性は35～39歳で最も大きくなっています(図表1-3-5、1-3-6)。

図表1-3-4 幸福度 (性・配偶関係別)



図表1-3-5 幸福度 (男性・配偶関係・年齢別)

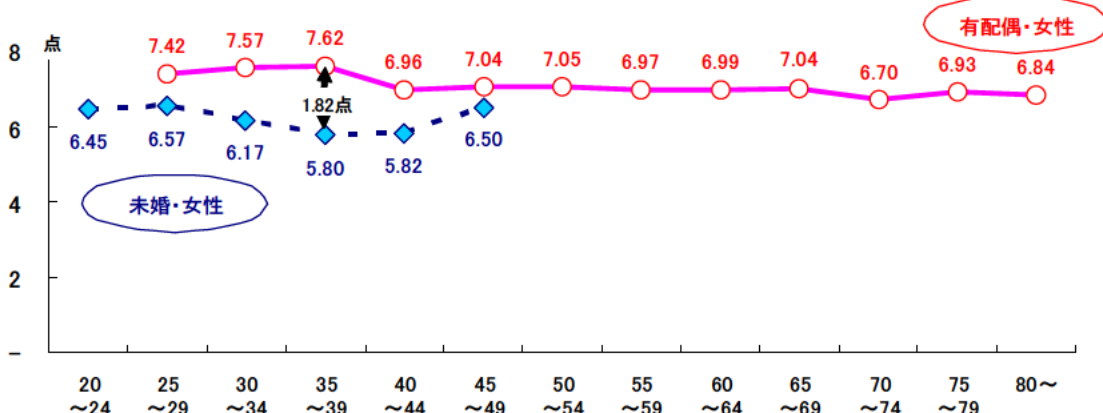
詳細データは別冊のデータ集24頁



(備考) 20歳から24歳の有配偶の男性、及び70歳以上の未婚男性はサンプル数が10未満のため、非表示としています。

図表1-3-6 幸福度 (女性・配偶関係・年齢別)

詳細データは別冊のデータ集24頁



(備考) 20歳から24歳の有配偶の女性、及び50歳以上の未婚女性はサンプル数が10未満のため、非表示としています。

3 性・職業・配偶関係別に見た幸福度の特徴

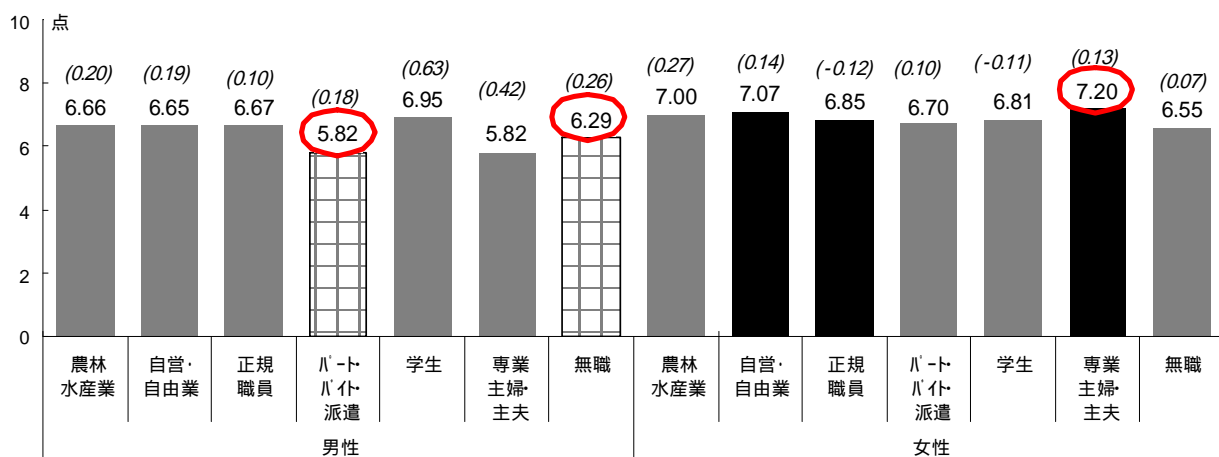
県民の皆さんの幸福度を性・職業別に見ると、男性のパート・アルバイト・派遣社員など及び無職の方の幸福度が低く、女性では専業主婦の方の幸福度が高くなっています。

さらに、性・職業・配偶関係別に見ると、有配偶の女性で自営業・自由業及び正規職員の方の幸福度の平均値は専業主婦の方よりも高くなっています（図表1-3-7）

また、未婚男性のパート・アルバイト・派遣社員などの方の幸福度は低くなっています。

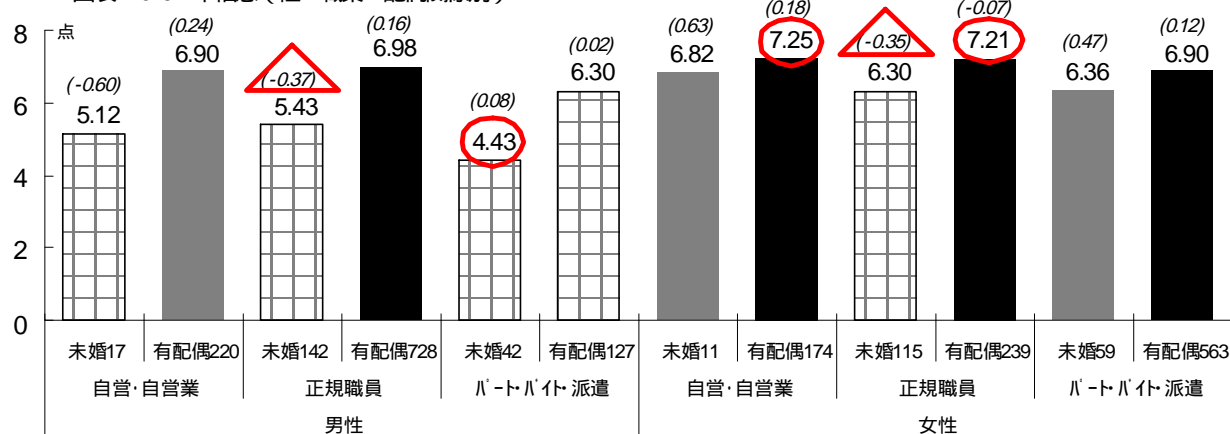
なお、正規職員であっても未婚の場合、男女とも幸福度は低く、前回調査よりも0.3ポイント以上低くなっています（図表1-3-8）

図表1-3-7 幸福度（性・職業別）



詳細データは別冊のデータ集25頁

図表1-3-8 幸福度（性・職業・配偶関係別）



（参考）1. 未婚と有配偶の右側の数字はサンプル数です。

2. 農林水産業、その他の職業、学生、専業主婦・主夫、無職についてはサンプル数が少ない等の理由により表示していません。

4 配偶関係・本人の年間収入別に見た幸福度の特徴

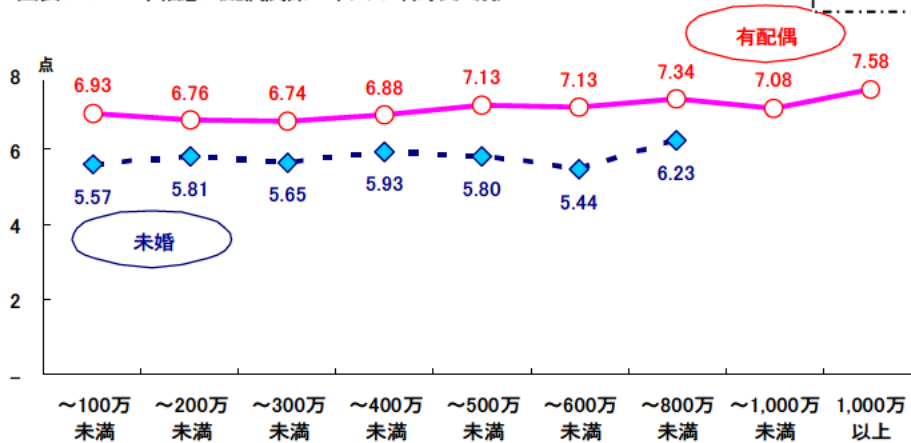
配偶関係・本人の年間収入別に幸福度の状況を見ると、いずれの収入区分においても未婚より有配偶が幸福度の平均値が高く、未婚で平均値が最も高い収入区分（600～800万円未満）よりも有配偶で平均値が最も低い収入区分（200～300万円未満）の方が幸福度の平均値が高くなっています（図表1-3-9）。

これを性別に見ると、有配偶の男性は収入区分が高くなるにつれて幸福度の平均値が高くなる傾向が見られます（図表1-3-10）。

有配偶の女性は400万円未満の区分では平均値は7点前後の水準でほぼ一定ですが、400万円以上の層になると一層高くなる傾向が見られます（図表1-3-11）。

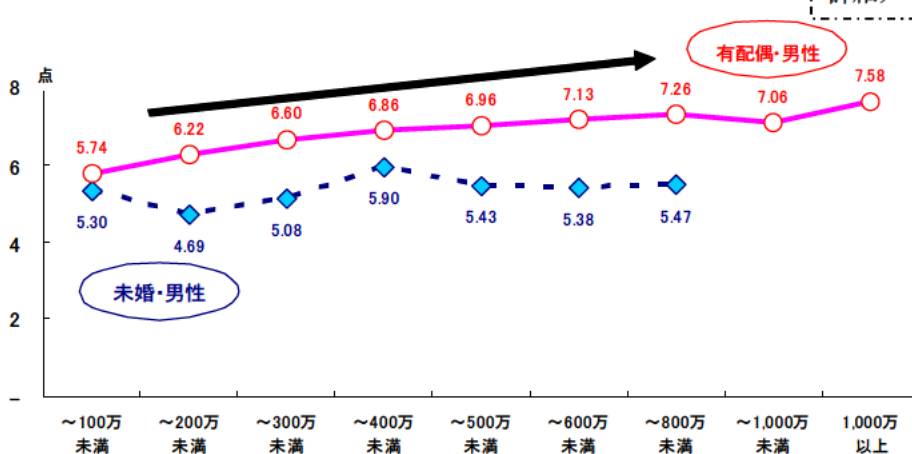
図表 1-3-9 幸福度（配偶関係・本人の年間収入別）

詳細データは別冊のデータ集26ページ



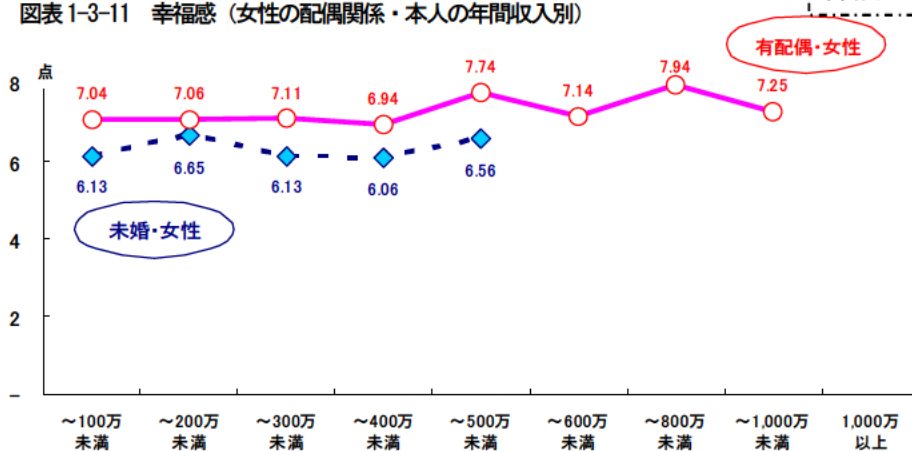
図表 1-3-10 幸福度（男性の配偶関係・本人の年間収入別）

詳細データは別冊のデータ集26ページ



図表 1-3-11 幸福度（女性の配偶関係・本人の年間収入別）

詳細データは別冊のデータ集26ページ



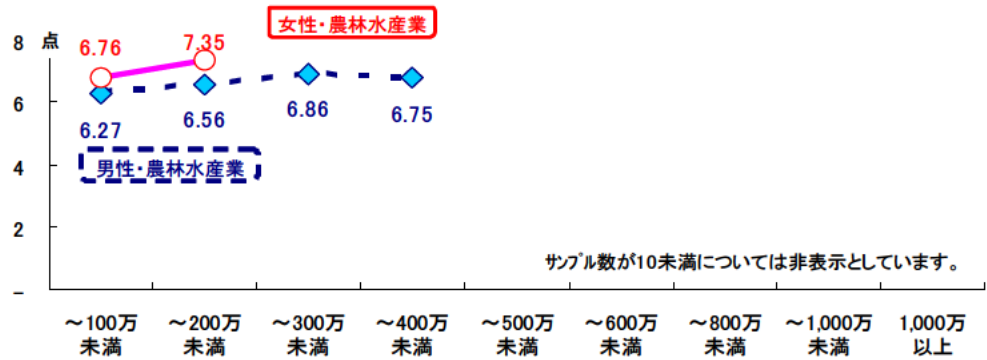
5 性・職業・本人の年間収入別に見た幸福度の特徴

性・職業・本人の年間収入別に幸福度の状況を見ると、男性はいずれの職業区分においても収入区分が高いほど幸福度が高くなる傾向が見られます。

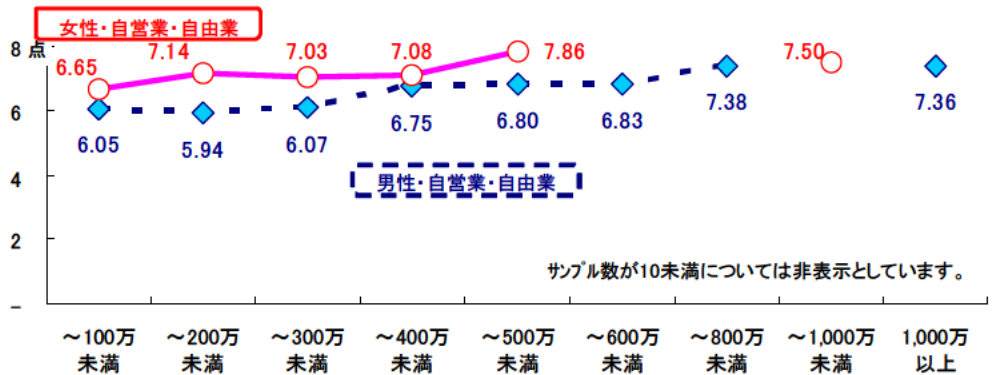
女性も収入区分が高くなるに従い、幸福度が高くなる傾向も見られますが、100～200万円未満の自営業・自由業の平均値が7.14点であるなど、収入区分が低い層においても幸福度の平均値が高い層が見られます。

この頁の詳細データは別冊のデータ集27頁

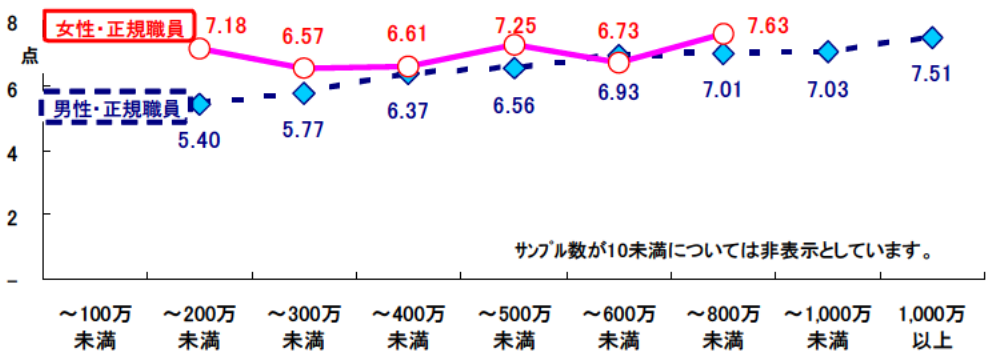
図表 1-3-12 幸福度
(農林水産業の性別・本人の年間収入別)



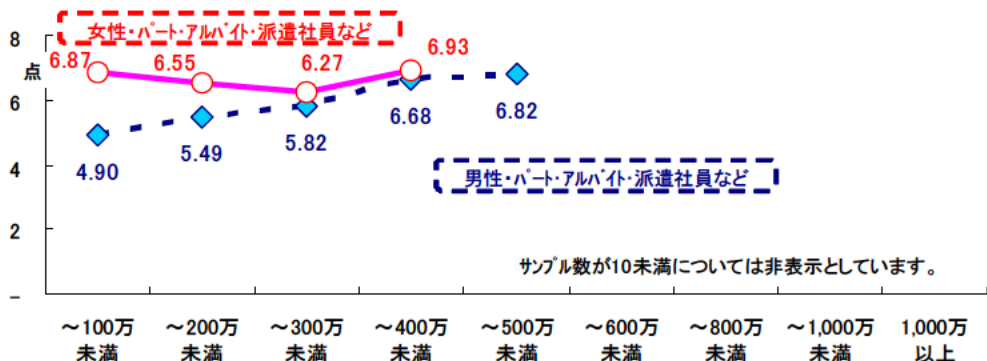
図表 1-3-13 幸福度
(自営業・自由業の性別・本人の年間収入別)



図表 1-3-14 幸福度
(正規職員の性別・本人の年間収入別)



図表 1-3-15 幸福度
(パート・アルバイト・派遣社員などの性別・本人の年間収入別)



6 職業・年齢別に見た幸福度の特徴

職業・年齢別に幸福度を見ると、自営業・自由業及びパート・アルバイト・派遣職員などの方は高年齢層で幸福度が低くなっており、無職の方は、若年層の幸福度が低くなっています（図表 1-3-16、1-3-17）。

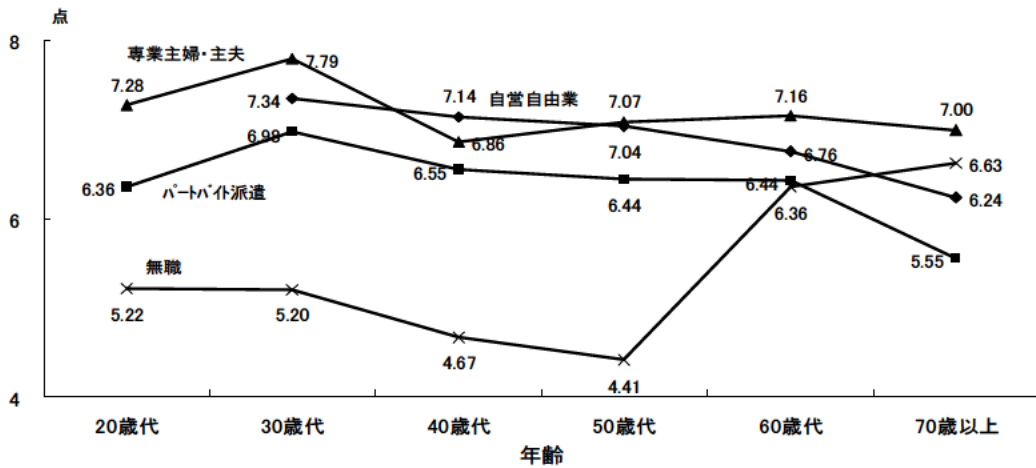
さらに、職業・年齢・性別に見ると、20～59歳の男性のパート・アルバイト・派遣職員などの方や、20～59歳の無職の方の幸福度の平均値が4点台と低くなっています（図表 1-3-18）。

図表 1-3-16 幸福度（職業・年齢別）

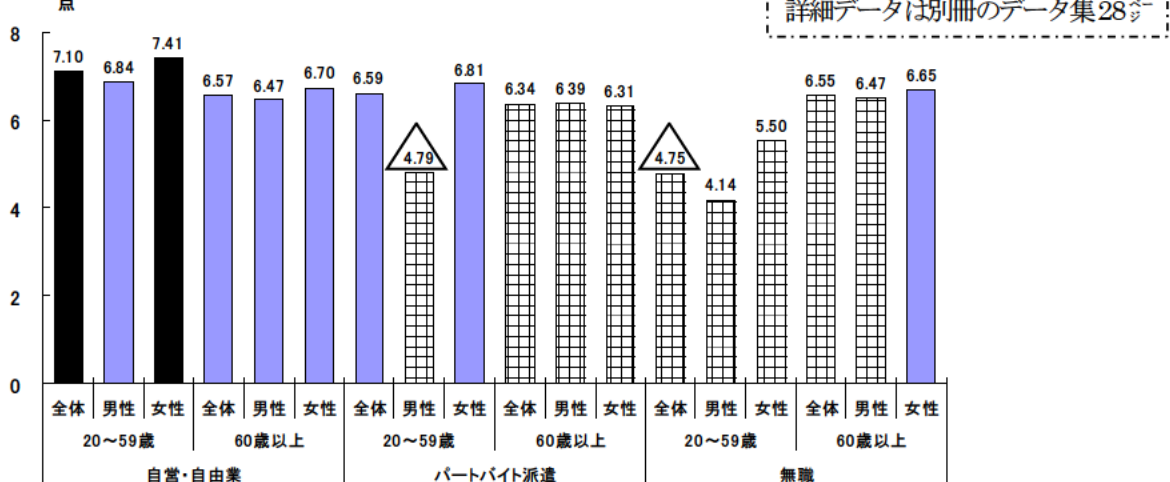
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
農林水産業		※	5.91	6.59	6.57	7.06 *	6.79
自営業自由業	※	7.34 *	7.14 *	7.04 *	6.76	6.24 *	6.84 *
正規職員	6.55	6.94 *	6.68	6.61	6.84	7.70	6.72
パート・アルバイト派遣	6.36	6.98 *	6.55	6.44	6.44 *	5.55 *	6.49 *
その他職業	6.50	6.26	6.93	6.71	6.92	7.00	6.72
学生	6.84		※				6.83
専業主婦	7.28	7.79 *	6.86	7.07 *	7.16 *	7.00 *	7.17 *
無職	5.22 *	5.20 *	4.67 *	4.41 *	6.36 *	6.63	6.39 *
合計	6.53	7.04 *	6.66	6.58	6.64	6.65	6.68

※…サンプル数10未満のため非表示。 *…県全体と比較して統計的に有意な差がある項目（危険率5%未満）。

図表 1-3-17 幸福度（職業・年齢別）



図表 1-3-18 幸福度（職業・年齢・性別）



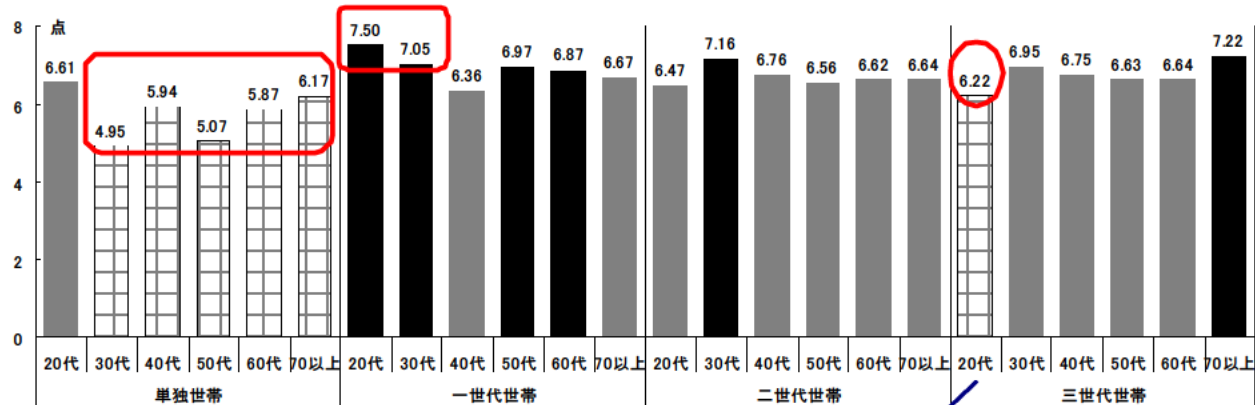
7 年齢・世帯類型別から見た幸福度の特徴

年齢・世帯類型別に幸福度を見たところ、単独世帯は20歳代を除いて幸福度が低くなっています(図表1-3-19)。

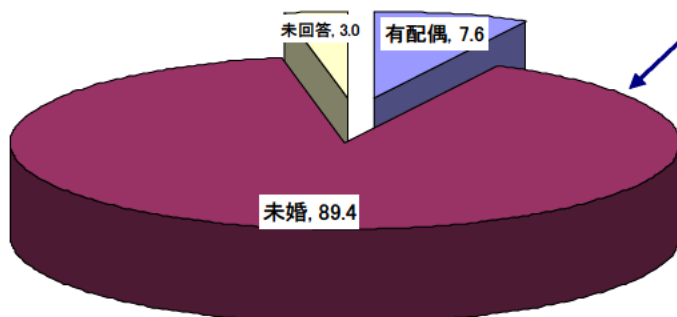
20歳代と30歳代の一世帯世帯の幸福度が高いのは配偶関係との関連が大きいと考えられます。

また、三世帯世帯の20歳代の幸福度が低いのも、配偶関係別の構成割合を見ると未婚が89.4%を占めている(図表1-3-20)ことから、配偶関係との関連が大きいと考えられます。

図表 1-3-19 幸福度 (年齢・世帯類型別)



図表 1-3-20 三世帯世帯の20歳代の配偶関係別構成割合



8 子どもの有無別などから見た幸福度の特徴

子どもの有無別の幸福度を婚姻状況も加味して見たところ、有配偶の方が未婚より幸福度が高く、有配偶では子どもがいる層の方がいない層より幸福度が高い傾向にあります。

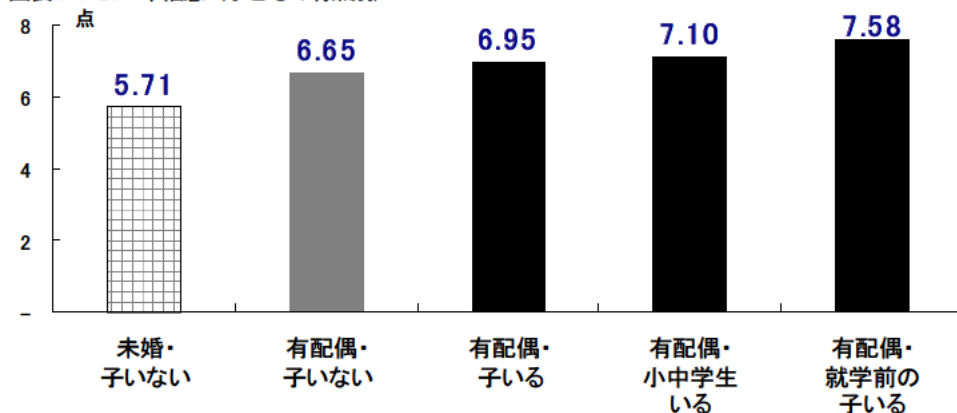
さらに子どもがいる層の中でも、就学前の子どもがいる層と小中学生のいる層は一層幸福度が高くなっています（図表 1-3-21）。

次に、子どもの有無別の幸福度を年齢別に見たところ、いずれの年齢層においても未婚より有配偶の幸福度が高く、有配偶では子どもがいる層の方がいない層より幸福度が高い傾向となっています（図表 1-3-22）。

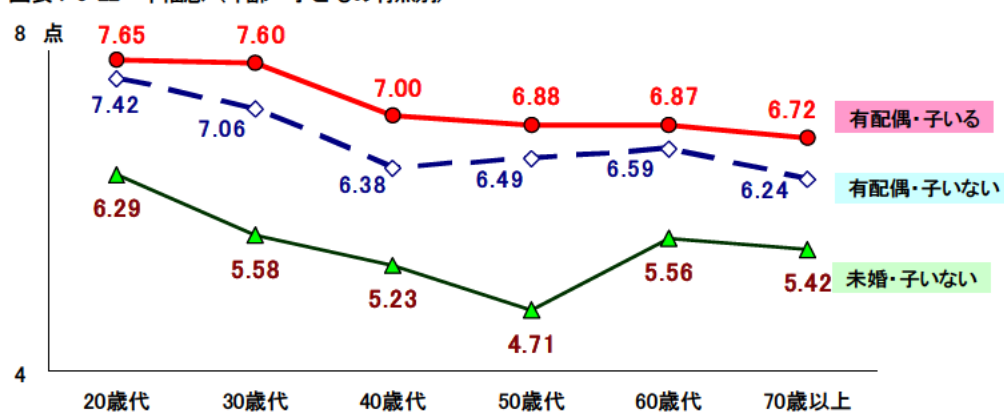
最後に、子どもの人数別に幸福度を見たところ、全ての年齢層、20～40 歳代のいずれで見ても、子どもの人数が多いほど幸福度が高い傾向が見られます（図表 1-3-23）。

詳細データは別冊のデータ集 29～34 頁

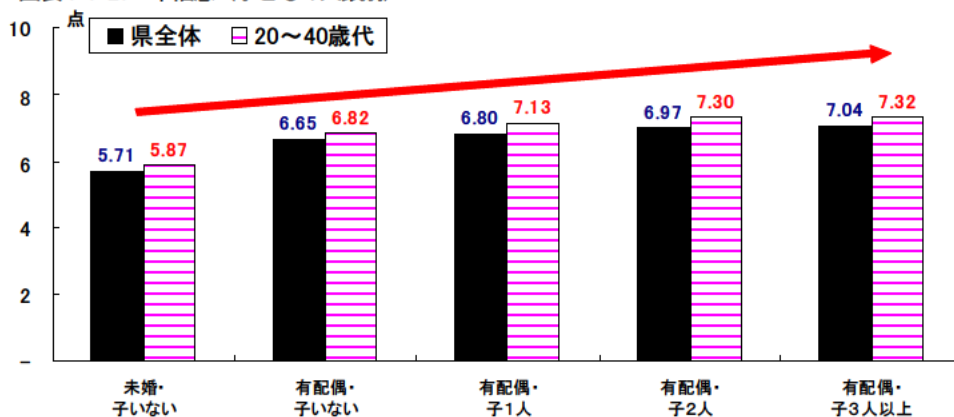
図表 1-3-21 幸福度（子どもの有無別）



図表 1-3-22 幸福度（年齢・子どもの有無別）



図表 1-3-23 幸福度（子どもの人数別）



9 30歳代女性の幸福度が高い要因

幸福度を属性別に詳細に見ると、性・年齢別では「30歳代の女性」が最も幸福度が高くなっていますが、「有配偶」、「子ども（特に就学前の子ども）がいる」なども幸福度の高い属性項目として浮かび上がってきました。

ここでは、「30歳代の女性」の幸福度が高い要因は、年齢なのか、配偶関係なのか、子ども（特に就学前の子ども）の有無なのかについて見ていきます。

幸福度の平均値は、未婚女性は20歳代より30歳代の方が低くなっています。

有配偶の女性のうち、「子どもがいない」場合、40歳代で低くなっています。

「就学前の子どもがいる」方の幸福度は30歳代で最も高くなっていますが、20歳代や40歳代でも幸福度は高く、就学前の子どもを持つことによる幸福度について年齢による大きな差は見られません（図表1-3-24）。

次に、回答者の構成割合を見ると、30歳代女性では「有配偶で就学前の子がいる」の層が48.1%を占める一方、未婚は15.5%と少なくなっています。40歳代女性では「有配偶で就学前以外の子どもがいる」が最も多くなっています（図表1-3-25）。

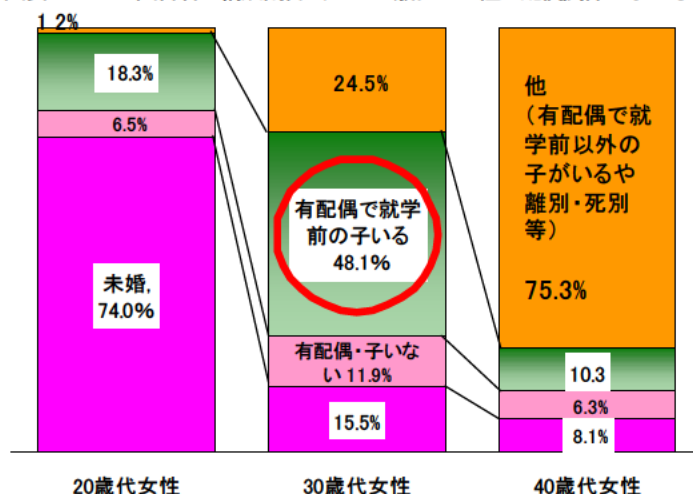
これらのことから、30歳代女性が他の年齢層より幸福度が高いのは、結婚し、子ども（特に就学前の子ども）を持つ層が多いためであると言えます。

詳細データは別冊のデータ集35頁

図表1-3-24 幸福度（20～40歳代の女性・配偶関係・子どもの有無別）

	20歳代	30歳代	40歳代	計	
女性	6.76	7.28	6.82	6.98	
未婚	6.50	6.02	6.03	6.29	←30歳代以降は低い
有配偶	7.50	7.60	7.00	7.28	
子がいない	7.18	7.17	6.10	6.80	←40歳代は低い
就学前の子がいる	7.61	7.85	7.47	7.75	←いずれの年齢層も高い
就学前以外の子どもがいる	—	7.24	7.02	7.06	
うち離別・死別	—	5.88	5.91	5.90	

図表1-3-25 回答者の構成割合（20～40歳代の女性・配偶関係・子どもの有無別）



10 本人の年間収入別に見た幸福度の特徴

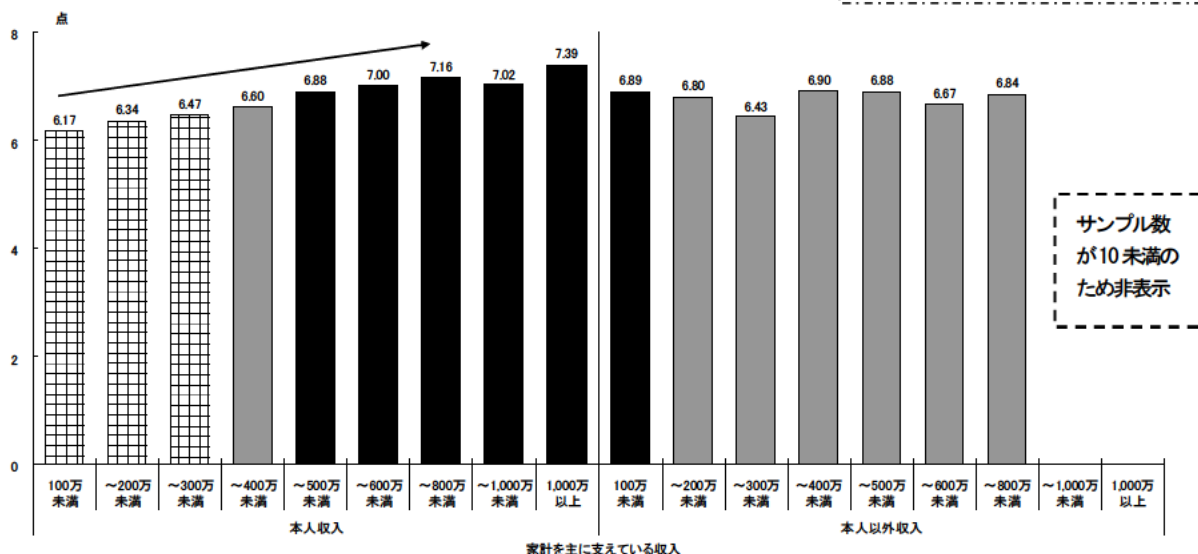
本人の年間収入別に幸福度を県平均と比べると、100万円から300万円未満の層の幸福度が低く、400万円以上の層で高くなっています（8頁参照）が、これらの平均値には、専業主婦・主夫など、就労していない方も含まれています。

その点を考慮して、本人の年間収入別と「家計を主に支えている収入」（問5-1）の回答をクロス分析したところ、家計を主に支えている方（複数の場合も含む）については、収入が高くなれば幸福度が高くなる傾向が見られます（図表1-3-26）。

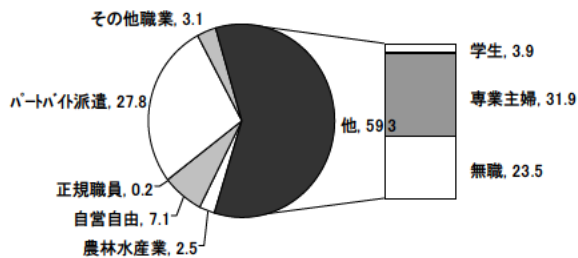
また、100万円未満の層を職業別に見ると、就労していない方（学生、専業主婦・主夫、無職）が約59%を占め、特に専業主婦・主夫が約32%であるのに対し、100万円～300万円の層では、就労していない方は約39%となっており、幸福度の平均値に影響を与えているものと考えられます（図表1-3-27、1-3-28）。

図表 1-3-26 幸福度（本人の年間収入・家計を主に支えている収入別）

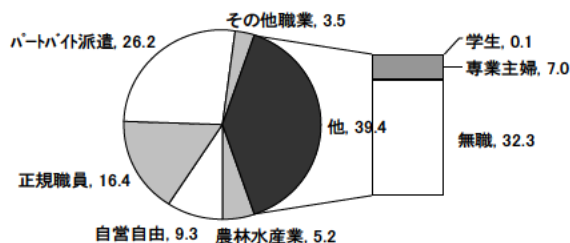
詳細データは別冊のデータ集36頁



図表 1-3-27 本人の年間収入100万円未満の職業別内訳



図表 1-3-28 本人の年間収入100～300万円の職業別内訳



第4節 幸福度を判断する際に重視した事項と幸福度との関係

1 幸福度を判断する際に重視した事項の県全体の状況

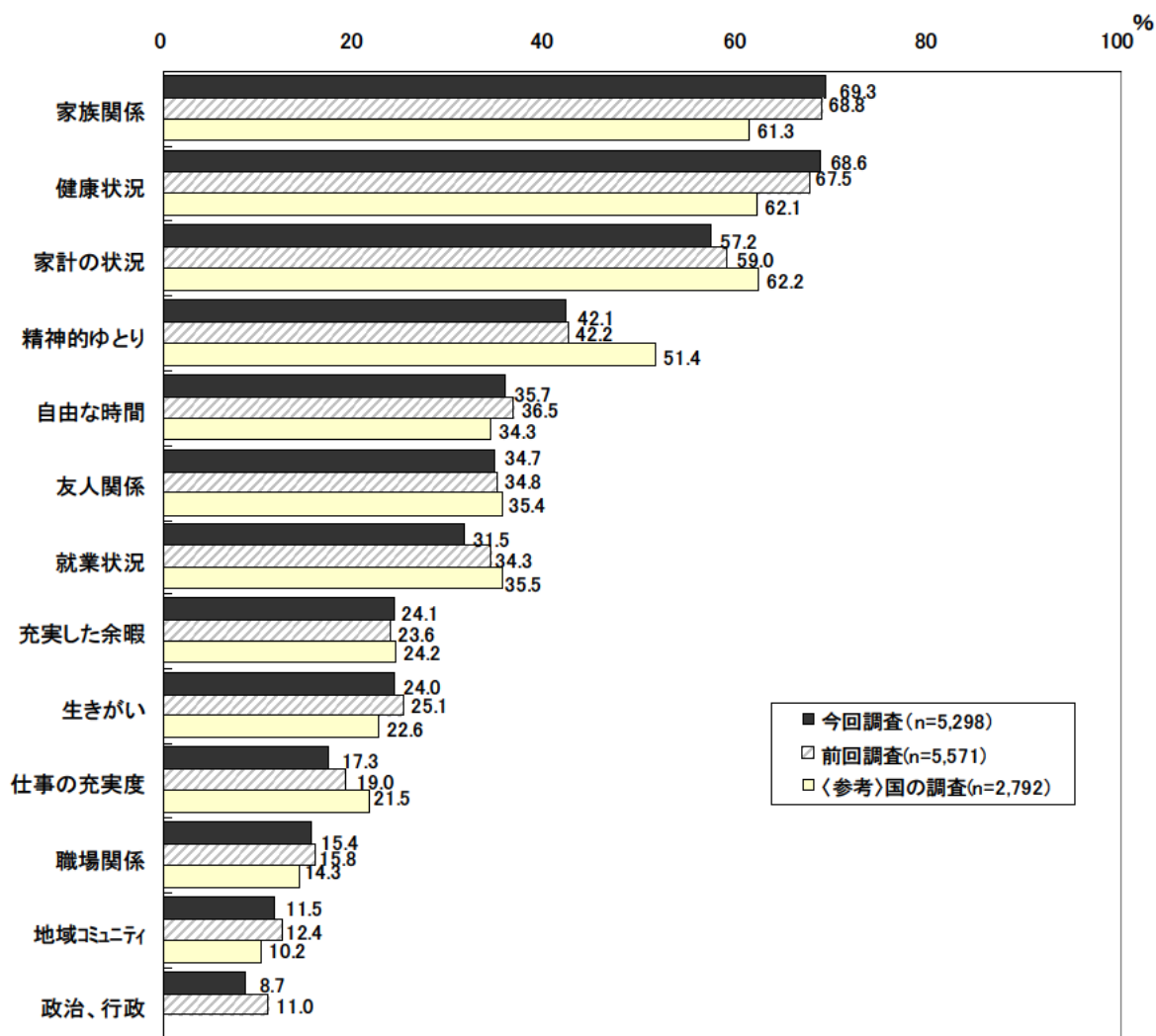
幸福度を判断する際に重視した事項について、国の調査と同じ形式*で質問したところ、「家族関係」が69.3%と最も高く、次いで「健康状況」(68.6%)、「家計の状況(所得・消費)」(57.2%)となっています。

前回調査と比較すると、特に大きな変化はみられません。

なお、国の調査との比較では、「家族関係」は県の今回調査の方が8.0ポイント高く、「精神的なゆとり」は国の調査の方が9.3ポイント高くなっています(図表1-4-1)。

図表 1-4-1 幸福度を判断する際に重視した事項(県全体の状況)

詳細データは別冊のデータ集37ページ



※国の調査・・・平成23年度国民生活選好度調査(内閣府、平成24年3月実施)

※国の調査では「政治、行政」の選択肢はありません。

2 幸福度を判断する際に重視した事項と幸福度との関係

幸福度を判断する際に重視した事項について、選択した(重視する)人の幸福度の平均値と、選択しなかった(重視しない)人の幸福度の平均値を比較したところ、「家計の状況」と「政治、行政」を除き、選択した(重視する)人の平均値が選択しなかった(重視しない)人の平均値より高くなっています。最も差が大きいのは、「家族関係」で、選択した(重視する)人が7.07点で、選択しなかった人(5.79点)より1.28点高くなっています。

一方、「家計の状況」と「政治、行政」は選択した(重視する)人の平均値が選択しなかった(重視しない)人の平均値より低く、特に「政治、行政」は選択した(重視する)人の平均値(5.51点)が、選択しなかった(重視しない)人の平均値(6.79点)より1.28点低くなっています(図表1-4-2)。

図表1-4-2 幸福度を判断する際に重視した事項を選択した(重視する)人と選択しない(重視しない)人の幸福度の平均値

詳細データは別冊のデータ集 38



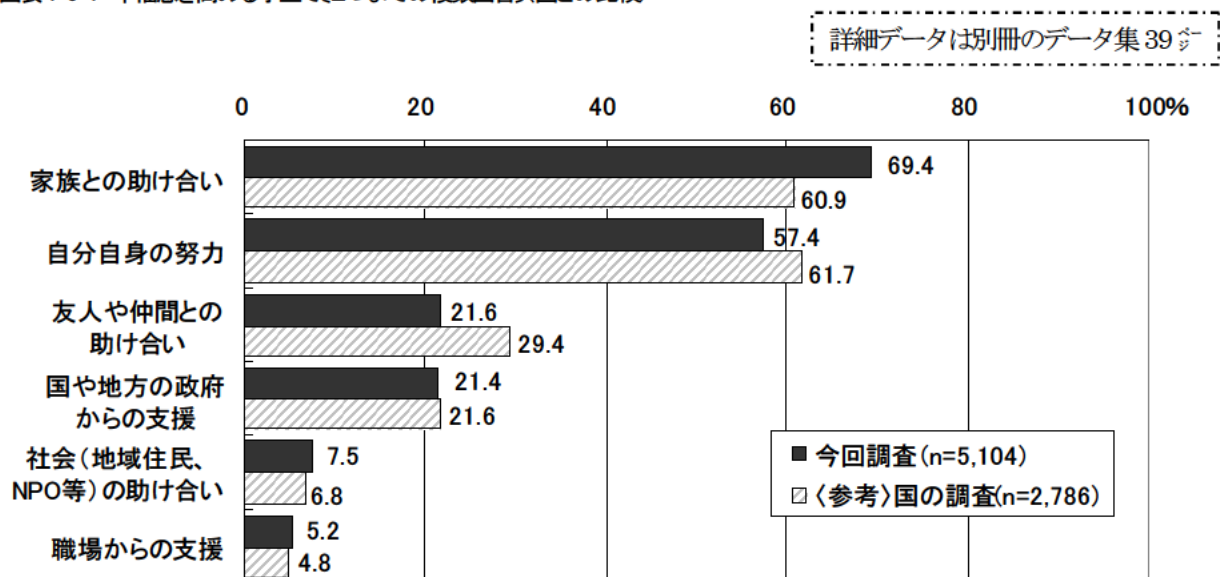
第5節 幸福度を高める手立てと幸福度との関係

1 幸福度を高める手立ての県全体の状況

幸福度を高める手立てについて国の調査と同じ形式で質問したところ、「家族との助け合い」が69.4%と最も高く、次いで「自分自身の努力」(57.4%)となっています。一方、「社会(地域住民、NPO等)の助け合い」、「職場からの支援」はそれぞれ7.5%、5.2%となっています。

国の調査との比較では、「家族との助け合い」は県の調査(69.4%)が国の調査(60.9%)より8.5ポイント高く、「友人や仲間との助け合い」は国の調査(29.4%)が県の調査(21.6%)より7.8ポイント高くなっています(図表1-5-1)。

図表 1-5-1 幸福度を高める手立て[2つまでの複数回答](国との比較)



※国の調査・・・平成23年度国民生活選好度調査(内閣府、平成24年3月実施)

2 幸福度を高める手立てと幸福度との関係

幸福度を高める有効な手立てについて、選択した（有効な手立てと考える）人の幸福度の平均値と、選択しなかった（有効な手立てと考へない）人の幸福度の平均値を比較したところ、「自分自身の努力」、「家族との助け合い」、「友人との助け合い」については、選択した人の幸福度が選択しなかった人よりも高くなっています。

一方、「社会（地域住民、NPO等）の助け合い」、「職場からの支援」、「国や地方の政府からの支援」については、選択しなかった人の幸福度が選択した人よりも高くなっています。

なお、最も差が大きいのは、「国や地方の政府からの支援」の1.29点、次に差が大きいのは「家族との助け合い」の1.00点となっています（図表1-5-2）。

詳細データは別冊のデータ集40～41頁

図表1-5-2 幸福度を高める有効な手立てと考へる（選択した）人と考へない（選択しない）人の幸福度の平均値

